

家族のふるさと

北海道福島会 監事 木田 正子

15歳で函館の高校に入學。故郷を後にしてから、早や半世紀近くの年月が過ぎようとしております。

「ふるとは遠くにありて想うもの」故郷に帰るたびに身に沁みたるこのフレーズ。今では交通機関も発達し、グッと身近になりました。私の生まれは、福島町です。青函トンネルの町、北海道の玄関口、二大横綱の町、日本一のイカの町、ひと様に「故郷はどちら？」と聞かれる度に、誇らしげに答えております。

私が中学一年の時、体育館に全校生徒が集められ青函トンネルの説明を聞かされたのを覚えております。昭和39年の事でした。東京オリンピックもあり、日本全体が活気に溢れていました。この年に病に伏せていた父が亡くなり、私にとつて忘れられない年になりました。

その後、学校を終えて横浜の会社に入社。昭和48年、Uターンで福島に戻りました。福島は、トンネル工事が盛んで人口も増え、町は活気に満ちていました。間もなく結婚し、今度は横浜にUターン。相撲好きの主人はず

ぐに「千代の富士後援会」に入りました。ゆかた地を買い求め、息子二人とお揃いのゆかたを着て大喜び！浜っ子の主人は、まるで自分の故郷のように福島を愛しておりました。

長男が生まれて一歳になろうとしている時には、千代の富士関が初優勝！東京大田区にありますが池上本門寺で豆まきをするということを知り、息子を連れて行きました。

押し合いへし合いの大混雑の中、主人がスーと長男を関取に渡しました。どうしたらよいのか分からない千代の富士関。

「おー。よしよし！」と言いながら抱いて下さったのです。忘れられない一生の思い出になりました。

その時の赤ん坊も今や34歳。今年もまた、家族や知り合いとともに、横綱記念館にお礼参りならぬお礼入館して参りました。福島で釣りをするのが好きだった主人は数年前に亡くなりましたが、福島は今でも我が家みんなの故郷です。

がんばろう天塩

東京天塩会 安岡 忠義

古里「てしお」は明治13年に戸長役場が開庁されて今年で134年になります。その古里から東京や関東各地に来ていた皆さんで東京天塩会を作り、10月19日の総会は34回目になります。一昨年は2代目会長だった片野建光さんが亡くなり、昨年は後を追うように3代目会長を歴任された榎木秀雄さんも亡く

なり悲しい年でした。10月に代々木公園で開催された北海道産直フェアに、古里天塩町や各方面のご協力のもと、我々も参加し大盛況でした。今年も10月3日から3日間開催されましたので昨年の内容を検討し今年も取り組みました。

また、会では5年ごとに古里訪問をしてい

日高昆布の専門店、小売も致します。

日高根昆布醤油 塩分9%
日高昆布醤油 塩分13%

北海道海産物総合卸商社
マルエー商事株式会社
橋爪 年幸 (東京様似会 会長)

本社 北海道様似郡様似町西町163-1
TEL 0146-36-3823
東京支店 東京都多摩市乞田687-1
TEL・FAX 042-339-6471

ますが、次回が来年に迫り役員会で取り組んでいきます。

古里は少子高齢化社会を迎え、地域経済の厳しい財政を抱えています。前浜で水揚げされたカレイや鮭を東京都内の小中学校の学校給食の食材に供給し、安全な食材として父母の皆さん方に大変喜ばれています。

天塩は昔から海や川の魚貝類に恵まれ、寛政年間から明治9年までの90年間、松前藩によって天塩場所が開かれていたが、寛政以前にも人が住んでいました。それはアイヌの人たちです。彼らこそ天塩に人が住めることを教えてくれた恩人です。今は一大酪農地帯となり、昔のような畑作農業の風景はありません。今は、町のイベントとして、「鏡沼しじみまつり」「天塩川港祭り」、秋の「味覚まつり」などがあり、また、日本海水平線に沈みかける夕日は一段と郷愁を誘います。

北海道からおとどけます。



北海道各産地自慢のこだわり農産物・海産物
北海道ならではの肉加工品
人気の北海道スイーツ
全道から種類も豊富な牛乳・チーズ
評判のこだわりワイン・日本酒
ほかにも、おいしい北海道が豊富です。

北海道 だんごプラザ
Hokkaido Dosanko Plaza
東京交通会館1階
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2丁目10番1号
(JR山手線有楽町駅1分、東京メトロ有楽町線有楽町駅3分)
TEL. (03) 5224-3800 FAX. (03) 3217-0411 [www.dosanko-plaza.jp]
■営業時間/午前10時～午後8時 年中無休(年末年始を除く)

北海道ふるさと会連合会会報印刷
会報・個人出版・事業用印刷・写真集

代々木産直フェア 出店写真データ
索引付きCD・DVD

2012年版・2013年版・2014年版/各1500円
各出店団体の収録点数は均一ではありません。

お申し込みは
電話 03-5803-3212 FAX 03-5803-3222 (竹田) まで

株式会社 双文社

東京都文京区本郷1-10-9